

学術情報基盤オープンフォーラムについて

平成23年12月21日

平成23年度第2回学術情報基盤オープンフォーラム

学術情報基盤オープンフォーラムと企画作業部会

- ◆ 平成21年6月に、今後の学術情報基盤の強化に向けた大学等との連携協力のための枠組みとして、学術情報基盤オープンフォーラムを発足。
*オープンフォーラム参加機関 240機関(平成23年12月21日現在)
- ◆ 国立情報学研究所では、この学術情報基盤オープンフォーラムの企画・運営のため、所内外の委員から構成される学術情報ネットワーク運営・連携本部の下に企画作業部会を設置。
- ◆ 企画作業部会では、アクセス回線共同調達の実施や、上位レイヤを含めた今後の学術情報基盤の強化に向けたオープンフォーラムの活動の企画立案と運営を行う。
- ◆ さらに議論を深めるための3つの検討グループを発足
 - コミュニティ連携・人材育成G:コミュニティ連携による効率化、人材育成教育に係る課題の検討
 - 最先端サービスG:ネットワーク活用した最先端e-サイエンス研究を促進させるためのネットワークサービスなどの検討
 - 認証基盤G:学認の推進と学認地域連携促進、他2つのグループとの連携



主な活動報告

アクセス回線共同調達

◆目的

大学等のアクセス回線について、ダークファイバーを用いることで、各大学が個別で契約している100Mbps回線程度の経費で1Gbps以上の速度を実現することを目的とする

◆方法

現在、各大学が個別に業者と交渉・契約しているところを、我が国の大学等の教育・研究機関全体で足並みを揃えることで、アカデミックかつボリュームディスカウントを引き出す

◆参加機関数

第1期

- | | |
|------------------|------------|
| ・アクセス回線共同調達説検討機関 | 115機関 |
| ・アクセス回線共同調達参加機関数 | 20機関（24回線） |

第2期

- | | |
|------------------|------------|
| ・アクセス回線共同調達説検討機関 | 120機関 |
| ・アクセス回線共同調達参加機関数 | 10機関（13回線） |

シンポジウムなどの開催等

◆ 学術情報基盤オープンフォーラム2010開催

平成22年11月10日(水) 10:30-16:30 参加者230名

【概要】

午前の部

NIIで行っている学術情報基盤に関する議論や活動の報告、今後の取り組み等の紹介、意見交換

午後の部

各大学等での上位レイヤ関連の取り組みや、新たにNIIで取り組んでいる事項と民間企業からクラウド化による情報基盤を取り巻く現状等の紹介

◆ 平成23年度第一回学術情報基盤オープンフォーラム2011開催(6月3日)

➤ テーマを絞ったパネルディスカッション形式のシンポジウムを開催

(コミュニティ連携・人材育成Gと認証基盤Gとの連携)

➤ テーマ:

(1)大学等の商用クラウドサービス利用に関するセキュリティポリシーを考える

(2)学認を活用した地域連携に向けて

◆ 平成23年度「クラウドサービスのためのSINET及び学認説明会」の連携開催

➤ 福岡(11/10)、金沢(11/15)、札幌(11/24)、京都(12/6)、広島(12/9)、名古屋(12/14)、東京(12/21)の7地域での開催

◆ その他

➤ フォーラム参加機関への情報提供等

・高等教育機関の情報セキュリティ対策のためのサンプル規程集」のリリース案内

・学術認証フェデレーションシンポジウムの開催案内

・edubase Cloud 活用入門セミナー案内

・edubase Cloudで学ぶクラウド入門セミナー案内など

コミュニティ連携・人材育成Gとの連携による主な活動

◆各機関の情報基盤サービスの課題調査の為のアンケート実施

137機関からの回答を得て、フォーラムの活動計画に反映

Webで結果を公開中 <http://www.nii.ac.jp/top/openforum/member/> (フォーラム参加機関のみ閲覧可)

◆商用クラウドサービス（クラウドメールなど）の大学等への訪問とヒヤリングによる実態調査

◆静岡大学を例にした「クラウド導入の手引き」を作成とフォーラム参加機関へ公開

➢第1版：平成23年5月に公開

➢第2版：現在準備中

◆大学連携を促進のための商用クラウドサービスをSINETへ接続できる枠組み整備の提言

➢平成23年7月に、SINET加入機関向けにサービスを提供する商用クラウド業者を「SINET加入機関向けサービス提供機関」と位置付け、当該機関からの接続できる枠組を整備

◆シンポジウムの開催

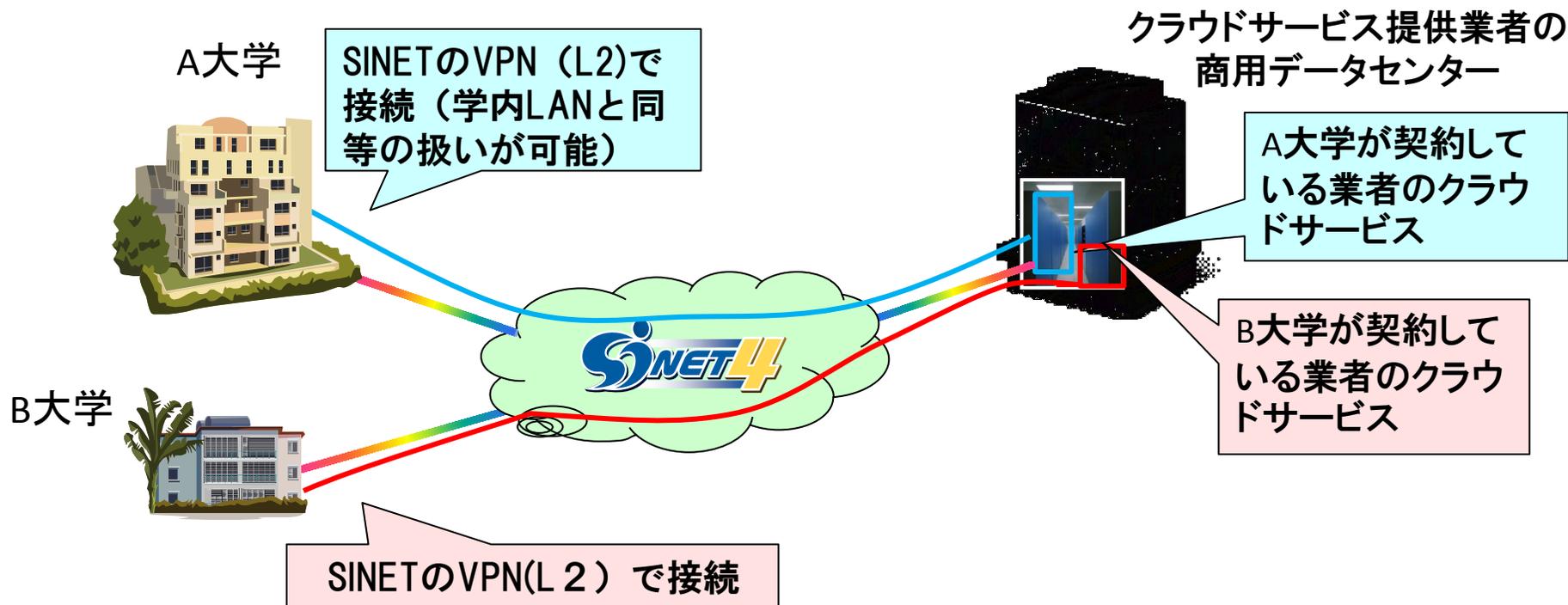
➢第一回学術情報基盤オープンフォーラム2011(平成23年6月3日)にて、

「大学等の商用クラウドサービス利用に関するセキュリティポリシーを考える」をテーマに
パネルディスカッション形式にて開催

商用クラウドサービスを活用した大学等のプライベートクラウド構築へのサポート

- ◆ SINET VPN(L2)サービスを活用し、商用クラウドサービスを用いたセキュアなプライベートクラウドの構築をより便利に実現
 - クラウドサービス(メールサービス、ストレージサービス等)提供業者がSINETへ直接接続できる枠組みを新たに構築(ただし、業者のSINETへの接続申請手続きが必要)
 - 加入機関の契約したクラウドサービスと加入機関をVPN(L2)接続しセキュアサービスを実現

参考URL:http://www.sinet.ad.jp/service/other/cloud_services



(*)VPNを必要としないセキュリティレベルであれば、大学のグローバルIPを割り当て、別キャンパス扱いで利用することも可能です(個別にご相談ください)

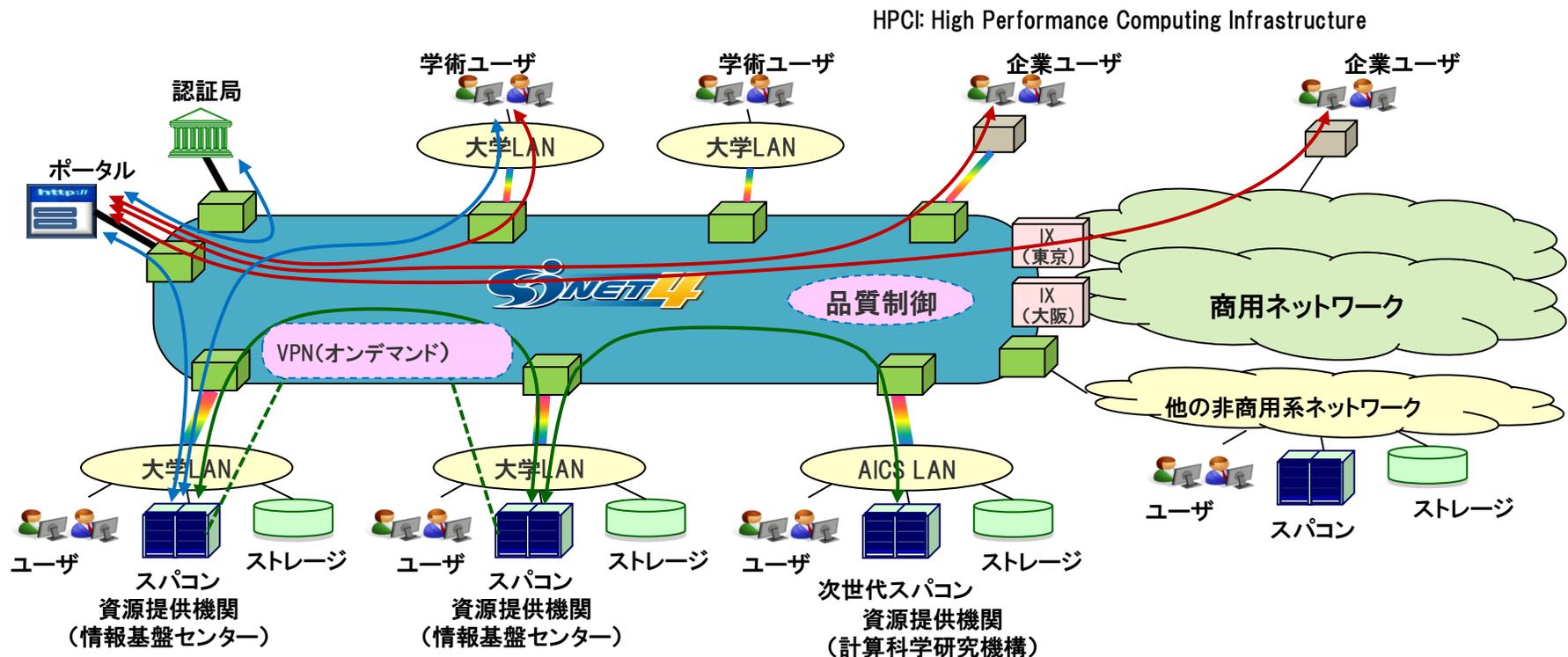
最先端サービスGの主な活動

◆ Shibboleth・グリッド認証連携を推進

- 情報基盤センターのユーザアカウントをShibbolethを用いて連携
- Grid Security Infrastructure (GSI)を用いて、情報基盤センターのスパコン群へのシングルサインオンを実現

◆ RENKEI Cloudによる資源共有化の推進

- 情報基盤センターにPOP (Point of Presence)を設置し、SINET4を用いた高速ファイル転送サービス、分散システム開発環境を提供



認証基盤Gと連携による主な活動

◆学認の大学間連携の推進

➤ 第一回学術情報基盤オープンフォーラム2011(平成23/6/3)にてのシンポジウムの開催

- 「学認を活用した地域連携に向けて」をテーマに開催:

[概要] 北陸、長野、京都、四国など、地域での学認利用を検討しているメンバーを集め、それぞれのアプローチを認識するとともに問題点を共有することで、地域連携における学認の役割について一般参加者も交えて意見交換を実施

◆最先端サービスGとの連携によるShibboleth・グリッド認証連携の推進

オープンフォーラムの今後の予定

◆オープンフォーラム年次会(仮称)の開催

- ・ 1日の時間枠で、年1回の開催
- ・ 内容(案)
 - 午前 企画作業部会 全グループによる活動報告等
 - 午後 学術情報基盤に関する情報交流・技術交流を目的とした、講演やパネルディスカッション等を開催

◆ミニオープンフォーラム(仮称)の開催

- ・ それぞれのグループでの開催を基本とし、課題に応じてNIIの関連部会と連携して、年数回程度開催。開催時期は柔軟に対応
- ・ 内容(案)
 - 各グループの活動報告や、アンケート等で要望の多い事項に関する情報交流会を行う

今後とも、
学術情報基盤オープンフォーラム
を宜しく願ひいたします。